



第12回 G X 実行会議

令和6年8月27日

中部電力株式会社
代表取締役会長
勝野 哲

我が国のGXの加速に向けて（1）

<エネルギー>

➤ 原子力の再稼働や新增設・リプレイス、再生可能エネルギーの拡大及び最大限の活用

- ◆ GXによる電化の加速やデジタル化の進展に伴う**電力需要の増加に対応**するためには、再エネに加え、安定的な発電が期待できる**原子力とLNGを主体とした火力（CCS付き）を活用**することが極めて重要。
- ◆ **原子力**については、事業者として早期再稼働と安全性の追求に取り組むが、高速炉を含む次世代革新炉等の開発・建設や核融合炉の研究開発・実証の推進に加え、**原子力事業の予見性を高めるための環境整備やサプライチェーンの維持・発展**が必要。
- ◆ **再生可能エネルギー**の拡大に向けては、日本が持つ技術力やポテンシャルの活用、地理的制約の克服の観点から、**地熱発電の推進、次世代型太陽電池（ペロブスカイト太陽電池）や浮体式洋上風力発電等の新技術実装に向けた取り組みを加速**する必要。

➤ 火力の脱炭素化及び最大限の活用

- ◆ **火力**については、当面の需要増に対してはクリーンな化石燃料であるLNGで対応することが現実的だが、**石炭火力をアンモニア混焼・CCS等により活用しながらトランジションを支えていく**。エネルギー事業者として水素・アンモニアの導入、CCUSの活用に取り組むが、**リスクや価格差の補填**に加え、エネルギー供給サイド・利用サイドを含めた**国内外でのサプライチェーン構築やCCUSのさらなる環境整備**が必要。

我が国のGXの加速に向けて（2）

<エネルギー>

➤ 発送電分離・全面自由化の下での安定供給に向けた電力システムの再構築

- ◆ GXによる電化の加速、DXの進展、革新的な省エネ技術の確立・実装を見極め、**中長期的な需給計画の策定**を進めることが重要。
- ◆ そのうえで、**発電事業**については、長期に亘り巨額の投資を伴うため、事業の予見可能性を高める必要があり、**持続的に電源開発が進むメカニズムの構築**が必要。

あわせて、**小売事業（一定規模以上でも可）**については、**供給力確保を促すことができる実需同時同量制に移行**することにより、インバランスを抑え、安定供給の確度を高めることが必要。

これらにより、短期のみならず中長期の**計画断面での供給力の確実な確保**や、**実需給断面での最適な需給運用が可能**となる**実効性のある市場への変容**が可能。

- ◆ 一方で、データセンターや半導体工場の建設などの**局所的かつ大幅な電力需要増加**に対しては、**分散型電源を活用した供給システム**などにより、電源と送配電も含めた電力システム全体の合理化を図っていくことが必要。また、こうした検討を、**スピード感をもって効率的に進めていく**ためには、**発電・送配電が一体的に対応できる環境整備**（特区指定やローカルグリッド・特定供給制度の活用等）も必要。

我が国のGXの加速に向けて（3）

- ◆ さらに、事業の予見性が保てない燃料調達の地政学リスクに備えるため、**戦略的予備力**（事業者が予見できない需給変動に対する予備的な焚口）として**石炭火力を一定程度維持していく仕組み**も必要。

<GX産業立地>

➤ エネルギーシステム全体の合理化

- ◆ 既存発電・送配電インフラを最大限活用するためには、**電源過多な地域への産業（需要）誘致促進策**が必要。
- ◆ GXに資すると期待されるエネルギー供給側と需要側双方で利用する**LCF**（Low Carbon Fuel）は、輸送・デリバリーに係るコストやエネルギー転換に伴うロスがあるため、最適なGX産業立地に向け、**既存インフラの有効活用や地域における企業間連携**など、地域ごとの特徴も加味した導入促進策が必要。

我が国のGXの加速に向けて（４）

<GX産業構造>

➤ グローバル規模の技術開発やスタートアップと大企業との協働加速

- ◆ 新たな技術・サービス開発に向けた産学連携によるスタートアップや基礎・実証・応用研究の促進から、実装というプロセスにおける早期の社会実装に向けては、企業イニシアティブが重要。そのうえで、他事業者や他業種との協調をオールジャパンからグローバルな連携に拡大し、国際規格・国際標準を獲得（ルールメイキング）していくことが必要。
- ◆ これにより、グローバルなサプライチェーンにおいて、戦略的自律性や戦略的不可欠性をできるだけ多く確保することになり、経済安全保障にも貢献。
- ◆ さらに、鉄鋼、化学等のGX素材から、半導体等の重要物品、クリーンエネルギー、GX製品に至るフルセットの「GX型サプライチェーン」と、CO₂の削減やコストなどをデジタルにより見える化して有機的につなぎ、さらなる合理化・最適化により、我が国の産業競争力の強化・経済成長に繋げていくことが必要。

我が国のGXの加速に向けて（5）

<グローバル>

➤ グローバルな連携による早期社会実装と体系的・総合的なルール形成

- ◆ グローバルなバリューチェーン創出にあたって、我が国のGX推進戦略と米国のインフレ削減法（IRA）との補完・協力関係を構築し、GXの実効性を高めることが必要。
- ◆ また、AZEC構想をより強固なものとしてアジアの脱炭素化を進めながら、連携を強化しつつ、トランジション技術のグローバルな開発・利用を進める。その際、国際規格・国際標準を獲得（ルールメイキング）し、連携企業群の生産性を向上させ、国際競争力を確保することが重要。

<GX市場創造>

➤ カーボンプライシングにおける公平性・中立性の確保

- ◆ カーボンプライシングについては、エネルギー間の公平性・中立性の確保（脱炭素化に繋がる電化・燃料転換を阻害しないよう、電気・ガス・石油の間で炭素価格は同じにする）や受益と負担のバランス（発電の有償オークション収入は電気の脱炭素化に用いる）が重要。
- ◆ また、炭素価格設定にあたっては、脱炭素化の進捗状況、社会・経済への影響、カーボン・リーケージの状況等に留意していく必要があり、当面は、上限・下限を設定することで、投資回収の予見性と価格設定の透明性を確保することが肝要。

我が国のGXの加速に向けて（6）

<GXに対する国民理解の促進>

- ◆ カーボンニュートラル実現に向けては相応の負担が避けられないが、これは持続可能な未来社会への先行投資。GXは電化を推進し、DXを加速させ、新たな価値やサービスを創出し、国民に「安心」「安全」「豊かで」「多様な」暮らしをもたらすための社会変容の取り組み。こうした認識を社会全体で共有し、理解と協力を促進することが重要。
- ◆ また、新たな価値やサービスの創出には、技術や人材などの経営資源を有し、事業領域や事業地域の拡大が容易で、柔軟な経営が可能な伸び代のある中堅企業群に期待したい。